利他的な親による仕送りや小遣いが
大学生の学習や就職への取り組みに及ぼす影響についての計量分析

荒木　宏子[†]
（慶應義塾大学 経済学研究科）

【要旨】

本稿は、我が国における高等教育費の家計負担の重さに着目し、親から大学生の子どもへの仕送りや小遣いといった生活費負担の大きさが、その学生の学習行動や就職に向けた意識や行動に及ぼす影響について検証を行う。具体的には、Becker(1974, 1991)による利他的な親と利己的な子どもの相互行動決定理論を出発点として、両親所得に占める子どもへの所得移転割合を親の利他心（利他的投資）の指標とし、それが、親の望む子どもの行動（勉強時間や就職への取り組み）に与える影響を、大学生個人の属性や生活に関するミクロデータを用いて推計した。その結果、両親の所得に占める仕送りや小遣いの割合と子どもの勉強時間に正の相関が確認されたのは、親と同居する文系学生のみであり、別居の学生については同様の効果を見出すことができなかった。また、親が仕送りや小遣いを手厚く与えることと、子どもの就職・自立に向けた意識や行動には負の相関があることが、同居別居の別を問わず観察された。これに対し、子どもが就労により所得を得ることは、就職に向けた意識や行動にプラスの影響を及ぼすことが確認された。

以上の結果より、利他的な親の行動に対する利己的な子どもの行動は、子どもの行動に関する親子間の情報対称性の有無によって大きく異なる可能性が示された。本稿の結果によれば、利他的な親は、勉強時間のように物理的に観察可能な子どもの行動については、監視の介在により親子間の情報対称性を保持し、子どもの行動に依存した所得配分を行うことで、利己的な子どもの行動を自動的に自らの望む方向に誘導することができると考えられる。しかし、監視の不在による情報の非対称などによって、上記の条件が満たされない場合、利己的な子どもは、親の望む行動を取らない可能性が見出された。

[†] Email;hiroco.araki@gmail.com